685

た。

みんなが平等で成熟した社会へ

# Tari l'assou

NPO 法人 よつ葉福祉会 広報誌

グループホーム「マチフル」 法人のコト 域共生社会の実現と、体制の構築につい

# 理

- 私たちは、いかなるときでも利用者の尊厳と 人権を最優先し、常にサービス提供の質の 向上を目指します
- 私たちは、常に「謙虚さ」「誠実さ」「丁寧さ」を 心がけ、職員同士が共に人間的な成長ができる 仲間づくりを目指します

福祉資源のイロハ 「基幹相談支援センター

私たちは、福祉的課題を解決し、利用者の 住みやすい地域づくりに貢献することを目指します ●発行:NPO 法人 よつ薬福社会 〒649-7174 ●編集長:井端 郁人 ●制作:株式会社 Crop ●ご煮見やお問い合わせは jimukyoku@yotsuba

よつ葉福祉会からのお知らせ

性が活かされ、 います。利用者それぞれの個にぎやかな雰囲気で活動して 曜日の外食や買い物に使う での作業に従事されてい る方の見学や体験も多くなり、 事をして稼いだお金で、

の作業に従事されています。、好きな分野や得意な分野が活かされ、仲間意識が強

ように、今後も活動していきた 居宅介護等事業と10月1日に 所した共同生活援助(グル FULL 業務内容は、相談支援事業、 し応援センター (満ちる) 在宅支援の部署で SIAWASE (幸せ)

い事への挑戦意欲を高めて 漠然とした不安を減らしたり、 験を活動に取り入れています。 埋などの家事や公共交通機関 にやってみることで、将来への やる前は不安だったけど、 りまでを行っています。実際について、学習~体験・振り 体的には、掃除・洗濯・調 していく為に必要なことの体 次の やつ

> て様々な経験を積めるようにし内での作業だけでなく、外に出 月にJA紀北かわか 緒に内容を話し合 た、 |ねぎの収穫作業をさせていた いてます。今後も、 ーベキューを実施しました内容を話し合い、先日、余暇活動では利用者と 「ソプラス」と「緒に

ぼ

٢

プラス

まだ定員に空きがあります お気軽にご相談ください 今年の「 事業所 業への訪問等の支援を行いま一度ご相談ください。面談や企等の就労上の課題がある人は、 ミュニケ きない」 5 援事業を行っています。めの支援として、就労 た方が長く働き続けられるた昨年10月より、一般就労され 就労されている方からは、

して就労できる

います。

「仕事がうまくで ると言っていただ

「周りの人とう

ションがとれない

談できる場所があるので安心

# 家族のための無料

9月16日(月)・10月14日(月)・ 11月4日(月):1月13日(月): 2月11日(火) <各回 13:30~15:30>

NPO法人 よつ葉福祉会 てんとう虫 会場 (伊都郡かつらぎ町佐野 847-4)

相談支援を利用の方、どんまいネット修了者の 家族の方が対象です

## 1 🗆 🗏 9月16日(月)

講師:暮らし応援センターシアフル 所長 井邊一彰

健康や障害について子ども自身が理解することは就労を継続する上では大切 です。それを支える家族が、本人の健康や障害を理解し、適切に提案や助言を することが、就労する、継続することに大きく関わってきます。そのポイントと方 法をお伝えします。

講師: ソプラス 副所長 谷亜矢子

就労には一般雇用や障害者枠での雇用、離職者・転職者向け等の一般労働 施策など、様々な方法があります。今回は、福祉のサービスを使って就労、定着 する方法として、どんなサービスがあるのか、どんな時に使えるのかをお伝えし

# 2月11日(火)

# 家族の語りから学ぶ」

家族としての不安や悩み、それをどうしていたのか。子どもに何をしてあげれば 良いのか、何をしてあげない方が良いのか。今だから気付く、こうしておけば良 かったこと、など。実際に就労生活を支える家族ならではの視点から、子どもの

# 2 □ 目

講師:暮らし応援センターシアフル 所長 井邊・

就労定着支

実際に

職業適性(マッチング)や基本的労働習慣(ビジネスマナー等)が身につい ていないと、就労を継続することは難しくなります。しかし、もっと前の段階で獲 得しておくことが望ましいスキルはたくさんあります。段階的に就労に対して準 備しておくことが大切です。

# 月13日(月)

労できるまで。そのときどきの状態や気持ちの変化もあわせてお話いただきま す。家族としてどうすれば良いのか、当事者からの発信をヒントに皆さんで一緒 に考えます。

各回 15:00 頃 ~ 15:30

「何でも話せる気軽な交流会」をテーマにしたいと思います。将来の就労に向け ての漠然とした不安や悩み、現在の生活での困りごとなどがあるかと思います。 家族としてのしんどさや、うまくいかないことなどを皆さんに聞いてもらえる機

研修お申し込み先 > ソプラス担当:谷 TEL.0736-26-7281 FAX.0736-26-7291

指した言葉なのですか。

の福祉サ 障害者、 いながら、 うとの内容です 認識は改め、皆で支え合いながら自分ら ミュニティ」と表現されています。 分かれてしまっていたけれど、そういった 「支え手側と受け手側に分かれるのではな ョンで使われ始めました。この方針では、 代に対応した福祉に取り組むというビジ 「骨太の方針2016」の中で、 いう言葉を使い出したのは20 しく活躍できる地域をつくっていきましょ 政府がはっきりと「地域共生社会」 あらゆる住民が役割を持ち、 生活困窮者といった受け手側に 自分らしく活躍できる地域コ ビスは支える側と、 高齢者や 新たな時 今まで 支え合

# これまでの社会は何が問題でし

子さんに障害があ

そのご兄弟が引きこも

ています。

例えばお

地域共生社会の実現と、体制の構築について

平成 28年に政府はいわゆる 「骨太の方針 2016」 の中で、

私たちは「子ども、高齢者、障害者等全ての人々が

地域共生社会の実現」を掲げました。

地域で共に支え合い・助け合いながら

どのような変化が起こるのでしょうか。

和歌山大学の金川先生にうかがいました。

地域や福祉関係者には

その内容と影響について

生活できる社会」へ向かって進み始めています

その人たちが何もできない 妙な哀れみ意識や「私たちが 障害者だからとい 人々の関係性や わけで

どういう経緯で生まれ、どんな社会を-地域共生社会という言葉をよく聞きま るのです からこそ、 質は何かわからない が抱える問題の本 分かれる問題もあ かできるものではな いった場合は往々 とってみれば、 タテ割りで窓口が 困っている タテ割りで何と 複合的に困って こんがらがっ よね。 困ってい

自分

そう

共生社会の実現のために、 見ていきましょうと。厚生労働省は、地域 病気等から、 支援体制に対して、「介護、子育て、 事』の意識を醸成」すること。"丸ごと』 づくりに向けて互いに影響しあい、『我が え合いを進めようと提案しています。"我が 丸ごと」の考え方に基づいて地域社会の支 割りの福祉ではなく、 な状況が地域では実際に起きています。 があるというケースも。このような複合的 家は生活保護を受けていて、 から、政府のこれからの方針では、 とは地域づくりを指していて、「地域 住まい、 生活を "丸ごと いま「我が事・ 家庭内暴 障害、 タテ を

地域のあり方について見直そう はありません。そこで、 スを受ける側となる可能性はあります 反発が出ることがありました。それがい 払った税金で養っている」などの支援への ちばんの問題点です。誰しも福祉サ 立場が分かれてしまっていると、 子どもや高齢者、 支え

症のおばあちゃんも、 差しがなくなることは良いことですよね。 員にメリッ が納得する形で地域 うとの考えがあるなら容認できません。 政の後退や財源を減らすために地域を使お 影響を受けられます。 あるように、 ら「情けは人のためならず」という言葉が りたいから面倒を見始めたはずです。 をしているのではなく、 誰かに言われ、 ただし、共生とは自発的なものであって、 あの人たちかわいそう」といった排除の眼 くなると思います。「(サービスを受ける) 理念、方向性は間違っていないので、 政府が目指す地域共生社会の裏に、 先ほどの富山型デイサービスの認知 自分本位で行われて全員が好 させられるものではありま ある社会になるはずです の合意を取れ 誰かに言われて子守 それが本来の共生で 自分が楽しい、 昔か

"我が事"

我が事・丸ごとの地域づくり

化・体制づくり

住民主体による地域課題の解決力強

市町村による包括的な相談支援体制

・地域づくりの総合化・包括化(地域支援事業の一体的実施と財源の確保)

・地域福祉計画の充実、各種計画の総

出所:厚生労働省「地域包括ケアの深化・地域共生社会の実現」5頁

何か変化

.イサービス」では、\* ごちゃまぜデイ 。 先進事例がいくつかあります。 「富山

このような社会は本当に実現可能なの

価値や枠組みを、,丸ごと, のために変化 対象範囲の見直しを進める、 基礎課程を設ける、業務独占資格の生労働省は、医療・介護・福祉に共 これまでの専門性のある各職務の 新しい体制を描いてい 新しい専門

それで良いと思っています。

政府と私の

戻す」ことができるようになれば

連携を深め、

「問題ごとに上手

く横につ

考え方は少々異なっています

看護と、各分野の人材が持つものは全然 、高齢者、障害者、さらには医療、 "丸ごと"

サービス・専門人材の丸ごと化

・公的福祉サービスの総合化・包括化(基準該当サービスの 改善、共生型の報酬・基準の 整備)

・専門人材のキャリアパスの複線化(医療・福祉資格に共通の 基礎課程の創設、資格所持に

よる履修期間の短縮、複数資格間の単位認定の拡大)

ますね。もちろん社会が複雑化 ぶことも必要となるでしょう。 れぞれ専門職として技術も倫理感も違い 私は各分野の専門性は交わるものでな 独立すべきものと考えて 他分野から学 専門職同士が した中で います。 そ

> りますか 制度改革を前にして、 けたいです。 政府の方針で仕事がなくなることは避 福祉に従事している人がこの 何かできることはあ

政府

地位向上なども訴え、 ぜひ研鑽を積んでくださ き取られる存在」になったりしてはいけ人材」であったり「他の職種に仕事を巻 き取られる存在」 る」と大きな声で言い 長線上ではなく、それぞれに専門性があ を第三者に訴えられる力をつけましょう。 持つこと。 野も横断的に見られる゛総合的視点゛ 「自分たちの仕事は家庭でできる仕事の延 かなければ。「安上 技術的には専門性を磨き 重要さ、 忙しい仕事の合間に大変です そして自分たちの仕事の大切 いわゆる仕事における価値 がりで何でもや 、社会に対して給与、 立場を確立させて **ながら、** 他分 れる を



Profile

# 和歌山大学経済学部准教授 金川 めぐみ氏

早稲田大学大学院社会科学研 究科博士後期課程単位取得。 和歌山大学で社会福祉・社会 保障に関して教鞭を執るほか、 紀の川市子ども子育て会議会 長、橋本市高齢者保険福祉計 画及び介護保険事業計画策定 委員会会長などを務める。



的な支援体制がうまく噛み合えば、よりこととされています。地域の持つ力と公

社会になっていくのは間違いありま

等のくらしとしごとを『丸ごと』支える」

# 暮らし応援センターシアフル

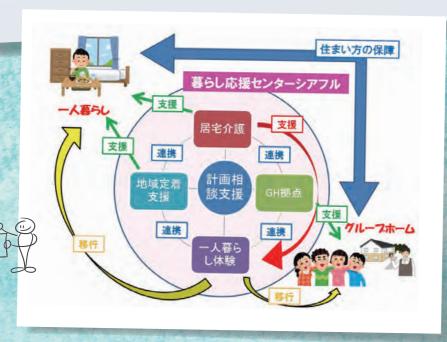


今年10月1日から、10名定員の共同生活援助(グループホーム)事業を開始しました。障害のある方のご家族は共通して、「私がいなくなった後の自分の子どもの生活が心配だ」と話されます。この困りごとに対し、

事業を通して解決していくことが社会福祉事業に携わる者の責務であると考え、 当法人では数年前からグループホームを実施していく計画に着手しました。

開所予定のグループホームの対象者は、世間では「8050 問題」と社会的 課題になっている "80 代の保護者 50 代の子ども" にあたる、50 代の皆さん が中心です。グループホームには生活支援員、世話人に加え、宿直職員を配置。 できる限りホームに職員が不在となる空白時間がなく、利用者の健康状態など を引き継げるような体制で支援していきます。また、地域との交流機会を大切 にできるよう、地域清掃等の活動に参加するとともに、地域に根差したグループホームになることを目指します。

シアフルは、当法人の在宅部門を担っており、利用者ご本人・ご家族の生活におけるニーズを直接確認するとともに、地域において必要な資源を考えていく部署です。わたしたちは高い倫理観に基づく経営理念と、法人全体が一体となった運営こそが福祉サービスの神髄であり、社会から期待される役割と考えています。これらを実現していくための大切な役割を担う部署だと考えています。シアフルの名前には『SIAWASE (幸せ)が FULL (満ちる)』との意味を込めました。利用者ご本人やご家族の皆様はもちろんのこと、地域の皆さまや私たち支援者みんなが幸せになれるよう、これからも活動していきます。





らし応援センターシアフ

「暮らし応援センターシアフル」を開所。昨年11月からは法人の在宅支援を担う部署として居宅介護等事業をそれぞれの事業所で行ってきましたこれまでよつ葉福祉会では、相談支援事業や

今年10月から、

共同生活援助

(グループホー

7

事業を始めました



シアフルの相談支援事業は、サービス等利用計画 の作成を担当する特定相談支援と障害児相談、地域 移行や地域定着の支援を担当する一般相談支援、そ れに加えて橋本・伊都圏域の市町から委託を受けて いる「障がい者相談支援」を行っています。サービ ス等利用計画や児童支援利用計画は約 200 件を担 当。今年 10 月現在で、4 名の常勤の相談支援専門 員を配置し、地域における相談支援体制の整備に貢



献しています。まずは、制度に沿って計画の更新やモニタリング、サービス担当者会議等を確実に行い、利用者の皆さまにとって必要とされる相談支援事業所になることを目標に日々の業務を行っています。また、橋本・伊都圏域は相談支援事業所数が少ない状況のため、相談事業部門では計画相談を通してそのエリアの利用者の皆さまに適切なサービス提供を行っていきたいと考えています。

居宅介護等事業では、在宅で生活されている障害のあるご本人並びにご家族の困りごとに対し、サービスを通して支援していけるよう努めています。この事業は当法人が設立当初から実施するもので、ご本人やご家族一人ひとりの生きづらさを解決したい、在宅で暮らす方の支えになりたいとの想いの元に行っています。当法人のスローガンである「自立に近づけ未来につなげる」を胸に、地域の身近な存在として活動していければと考えています。居宅介護や同行援護、移動支援の各サービスを行い、障害のあるご本人やご家族に当たり前のことが当たり前に行える生活を提供していくことを目標にしています。



5

今回は障害のある方や そのご家族が、より住みやすい 地域を創るための活動をする 「基幹相談支援センター」を

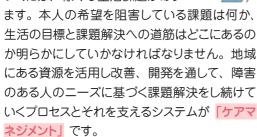
取り上げます。



、教えて! 基幹相談支援センターのこと //

# ケアマネジメントって何?

障害のある人が地域社会からの 見守りや支援を受けながら、そ の地域で希望する生活を続けて いくには、様々な生活課題があり



POINT 2

# 特定相談支援事業所の役割

相談支援の制度が始まってからケアマネジメント はずいぶん進みました。特に福祉サービスを利 用する際に計画を作成することで、個別の生活 課題が見えやすくなりました。これらを担ってい るのが、サービス等利用計画を作成する特定相 談支援事業所です。福祉サービスの利用がない

方は、市町村の障害者相談支援事業 の委託を受けた委託相談支援事業所 が担っています。個別の課題がいろ いろ見えると、その地域の地域課題 が明確になってきます。



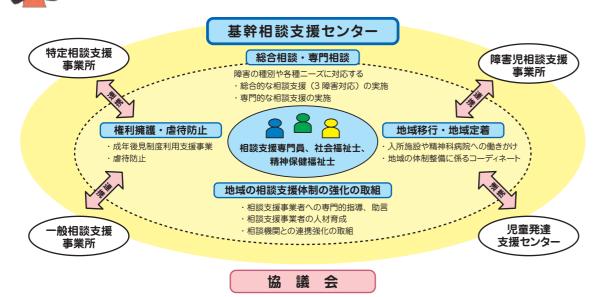
# POINT 3

# 地域に密着する基幹相談支援センター

これらの相談支援事業所や直接支援を行っている福 祉サービス事業所が、より良い支援を提供していくた めの土台作りをするのが「基幹相談支援センター」で

センターは支援がより良いものにな

和歌山県内の各地域にも基幹相談支援センターの設 置が進んでいます。福祉サービス事業所を利用され るご本人やご家族からすれば、基幹相談支援センター は少し遠いところにあるように感じるかもしれません が、障害のある人が住みやすい地域を創るための活 動をしていくことはノーマライゼーションの社会へ近づ く一歩となるのではないでしょうか。





皆リラックスでき、

スタッフの

**■**DATA

肉料理 俵や

-TAWARA YA

やって外食するんです

か ?

住所:和歌山県岩出市根来 826-

根来西交差点(セブンイレブン岩出根来店さん) より粉河・加太線を西に 200m

電話・FAX: 0736-67-8558

② 今後について

れることがわかり

今後も引き続き

将来的には、

柿の摘蕾や

障害のある皆さ

んに作業をしてもらうの 十分に戦力となって

「熱いから気を付けてね」な よく声をかけていただきまれ

んで来てくれたときには、

「いつもこう 「美味しい

」と片付けてくれました。

料理を運



気になる利用者さんがいて、

それをは

壁に貼ってあったメニュー

のポップが

がしてしまいましたが、

嫌な顔を見せ

ずに明るく笑顔で「気になりますよね

席をすでに片付けてくれていました。 の利用者が2人と伝えておいたところ、



したが、スタッフさんが出て来てくださ

介助を気遣って前輪を持ち上げサ

してくれました。

事前に車椅子

①みんなで行く "岩出ランチ"

訪ねた人利用者5人+職員3人 計 8

だけでなく、 わらや)」さんは車椅子が店内に入れる してくれている廣田さんに利 入れ対応をしてくださいました。 お店の入り口には少 人も加わってワイワイと外食に行って 回はこのコ 岩出市の とても明るく気さくに受け 「肉料理 俵や し段差がありま 用者仲 も取材を

他府県からもこちらのお店に来ら さんはオススメです。 ご家族で行く外食の際にも「俵 すごく賑わっていま ごちそう

使用で柔らかくジュー ていてコストパフォ ムもあり、 んな大満足です。 円でドリンク、+ 円) も。 グと海老フライのコンビメニュ・ ほぼ皆がオー ト付きにできま 海老フライも3匹も付 ハンバーグは国産牛 ランチにはプラス ダー 付き 290円でドリンク ーマンス抜群。 シーでボリュー したのは B 4

ランチメニューは週替わ は満席で待っている方もいらっ したが、 退店を急かされること 食べ終わる頃には店 りランチ

らぼとび

**~のグル** 

岩出市根来のレストラン「肉料理

俵や」さんへ食事に行ってきま

② ソプラスに仕事を 依頼したきっかけは?

の作業は危険を伴う恐れがある等の理由で断念 の依頼をしましたが、

ったため継続を断念

豆の葉を取る作業を 今年は、畑に出て、 安全面に考慮。

スを確保-

玉ねぎの収穫作業や してもらっています



もう一度柿の摘蕾作業を依頼

利用者の皆さ

んと一緒に作業を

との意見があ

作業内容が難

一昨年はソプラスさ

んに柿の摘蕾作業や選果場での箱折り

の仕事

ジに掲載されている障害者施設等の物品及

お願いをすることに

作業体制が整って

ないこと、

選果場の中で

ひ役務の作業欄に農業の記載があったため、 和歌山県のホ

社会とつながりを生み出す 依頼を受けています 紀北 か

わかみ

ソプラスなど法人内の就労支援事業所が農作業の 「農福連携」 は

の一つです 試行錯誤. しながら